

11月

膀胱の痛みや頻尿でお困りの方へ —「間質性膀胱炎」という病気を ご存じですか?—

副院長・泌尿器科部長

いしうら よしゆき
石浦 嘉之



排尿回数が多く、外尿道口や下腹部の痛みで困ることはありませんか。

加齢や過活動膀胱や前立腺肥大症によって排尿回数は多くなりますが、通常痛みは伴いません。いわゆる“膀胱炎”は細菌感染に伴い頻尿や排尿痛が生じます。痛みを伴う頻尿の原因の多くは急性細菌性膀胱炎や急性細菌性前立腺炎であり、抗菌剤投与で改善します。抗菌剤で改善しないものについては他に原因があると考えられ、精査が必要になります。膀胱尿道結石や膀胱癌でも頻尿や膀胱痛をきたすことがあ

りますが、ほとんどが適切な治療によって治ります。

完治が困難で問題となっているのが”間質性膀胱炎“です。膀胱部痛と頻尿を主症状とし、膀胱容量の減少を認めるものの尿失禁はない事が多く、成人女性に多いです。膀胱上皮の防御機構が失われ、膀胱粘膜の下にある間質に尿がしみこみ炎症が起きることが原因とされています。香辛料やカフェインや生野菜や大豆などといった食事との関連が言われています。膀胱部痛が顕著で尿検査上細菌感染が無く、1回の排尿量が200ml以下、尿失禁は伴わない、といった特徴があれば間質性膀胱炎を疑います。疑わしい場合は、排尿記録を自宅で記録してもらい、膀胱鏡検査で診断します。予防方法として、水分を多めにとる、下痢や便秘に気を付ける、体を冷やさない、疲れやストレスをためない、細菌性膀胱炎はしっかり治す、といったことが挙げられます。治療は、鎮痛剤投与、食事指導、膀胱水圧拡張などがあります。膀胱鏡検査で特徴的なハンナ病変があればハンナ型間質性膀胱炎と診断します。膀胱内ジムソ注入療法やハンナ潰瘍焼灼術など特殊な治療が効果的です。なお、当院は「ハンナ型間質性膀胱炎」に対する臨床試験を実施しています。

間質性膀胱炎は正しい診断と治療をおこなえば、症状のコントロールが可能です。富山労災病院は間質性膀胱炎の診療実績が豊富であり、富山・石川両県から多くの方が通院しておられます。尿失禁はないものの膀胱痛を伴う頻尿が持続してお悩みの方は一度泌尿器科に受診されることをお勧めします。

富山ろうさい病院では、毎月、ケーブルテレビ「NICE TV」による行政番組「まちかど魚津」に、各診療科の医師が出演し、最新の医療情報を提供しています。

放送日程：2025年11月1日～11月15日

放送時間：①午前7時 ②午後1時 ③午後5時 ④午後10時

「(仮)糖尿病劇場」

(出演者) 糖尿病・内分泌科部長 村上 史峰 他



過去の放送はこちらの
QRコードからも確認できます。



NICE-TV まちかど魚津

富山労災病院からのお知らせ



【過去の放送はこちらから】

URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/movie/>